
1

霧夜 紅夢

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

1

【Nコード】

N2777D

【作者名】

霧夜 紅夢

【あらすじ】

名前しか知らない少女に手を引かれ、連れていかれたのは少女の家。空、16歳。まだまだ分からない事が世の中には沢山あるようです…（汗）

2話：不思議な少女

結局僕はリールと言う女の子の家に行くことになった。
前言撤回。

拉致されたと言った方が妥当だろう。

まだ辛うじて動く右腕を引っ張られ、ほとんど引きずられて服は泥だらけでボロボロ…

左腕はさらに悪化したのか目茶苦茶痛い。

「おい。早くこつち来いよ！」

家が上がってすぐ部屋の奥へと進んだリールは僕を早く来いと催促する。

「あ、うん…」

……

古びた一軒家の部屋でリールに

「ここに座ってて」と言われ、座って待っていた。

低いタンスの上に、写真入れに入った一枚の写真があった。

その写真入れの硝子は、割れていて、しかも中の写真も傷ついて顔も分からない位になっていた。

さらに写真には茶色の染みが付いていた。

恐らく血だろう…

割った時に付いたのだ。と思う。

…と写真をもつと見ようとしていたところ、急に写真が右手から奪われた。

見上げると、凄い形相をしたリールがいた。

「ご、ごめん…勝手に見る気は無かったんだけどつい…」

「いいよ。」

リールは謝る僕の目を見ないで言葉を遮るように冷たく言い放った。

「ごめ

「いいってば！」

「あ…ごめん…」

気付いたように謝るリールは下を向いたまま黙ってしまった。

「リール？」

「い、いや、何でもない！早くソラの手当てをしなきゃね！」

アハハと無理やり笑ってるのがわかった。

僕の左腕をとって、とりあえず固定のために包帯を巻き付けていく…

突然。

リールは語り始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2777d/>

1

2010年12月30日07時47分発行